



衣類・寝具の収納術

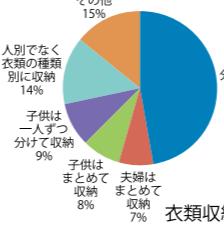
—必要な収納量と衣類関連家事の見直し—



家のあちこちに分散している衣類、寝具関連の品々を全て把握するのに苦労している方は多いのではないのでしょうか。旭化成ホームズくらしノベーション研究所は、衣類、寝具関連の収納の問題は「ここ」にある…と感じました。アンケートの結果を見て、見直してみませんか。

■収納の仕方と場所

まず、日常使われる衣類の分け方は5割近くの方が「完全に一人ずつ分けて収納」していました。また、収納場所についても、ご家族のメンバーを問わず、半数以上は「個室」と回答されています。つまり、家族の収納は「個別分類」「個室管理」が基本である事がわかります。これは奥様の希望として、ご家族に「自分のことは自分でして欲しい」という気持ちがあり、お子様への躰としても意識されているのではないかと考えられます。



次にお子様のお年齢別にファミリークロゼットの利用傾向を見ると、「子どもの物が他の家族と一緒に収納しているよりも、子供の部屋に置きたい」という気持ちがあるようです。すなわち、末子年齢が低いご家族は、ファミリークロゼットを「持っている」「利用したい」という回答を合わせると85%以上となるのに対し、中学生以上のご家族では

「利用したくない」という回答が50%という結果となりました。お子様側からも年齢が大きくなると「個別分類」「個室管理」の希望が高くなるようです。

■収納の必要量

「利用したくない」という回答が50%という結果となりました。お子様側からも年齢が大きくなると「個別分類」「個室管理」の希望が高くなるようです。かなりの量になると思いますが、多くの奥様が現状では「収納が不足している」と感じていらっしゃるようなので、例えばクロゼットはパイプの一部を上下二段とするなど、空間を無駄なく使う工夫が必要と考えられます。

また、お子様の収納は、乳児〜大学生までを含んだ数値です。それでもこれだけの収納量があるということは、お子様についても同等の収納を用意することが必要なのではないでしょうか。小学生になればスポーツのウェアや用具なども含め収納したいものが増え、中学生になれば私服の他に制服や部活動のユニフォームなども必要になります。将来を見越した収納量を確保したいところです。

1人当たりの収納目安

	大人	子供
ハンガー	2本	1本
衣ケース	4個	3個
季節外	2本	0.5本
衣ケース	3個	2個

衣類の世帯平均 (ご夫婦+お子様1.8人)

	日常	季節外
ハンガー	6本	4.4本
衣ケース	12.8個	9.5個

※(基本単位)吊るす収納…幅90cmのハンガーパイプ、たたむ収納…幅45×奥行55×高さ24cmの衣装ケース

■「吊るす収納」と「たたむ収納」

奥様からは「吊るす収納」の方が「たたむ収納」よりも、「何がどこにあるか把握しやすい」「片付けやすい」という点で高い評価を得ています。また、「吊るす収納」は新たに場所を作り難いので、「初めから計画しておきたかった」との声もあり、室内干しや洗濯物の一時置きとしても注目されていることも分かりました。

一方、ハウスタストのアレルギーなどがある場合は「ほこりが付きやすい」とのご指摘もあり、その場合は「たたむ収納」の方がほこりが出にくく、好ましいようです。

■寝具の収納

個室の収納を計画する時に、意外と盲点になっていたのが寝具の収納で、十分に確保されていないのでは…と思われる回答が多くありました。マンションで特徴的なのは、予備の布団を持たないご家庭が多いことです。不足しがちな収納を有効利用するための工夫の一つと思われれます。ベッドで寝る場合も暖かい季節になれば不要になった掛け布団の収納場所が必要に

■衣類作業基地

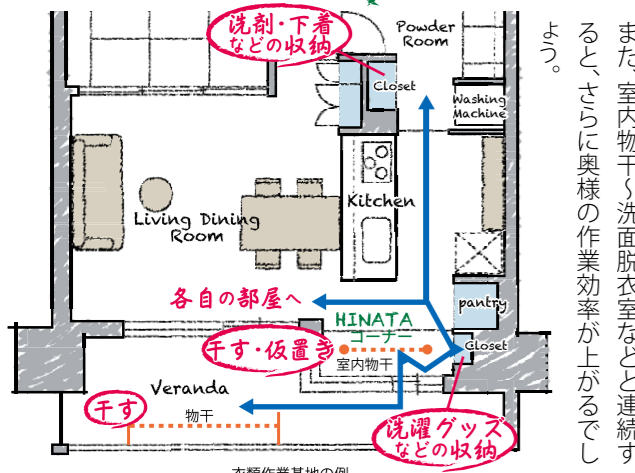
こうした衣類作業の「基地」的な場所があつて、作業時に必要な衣類がここに集まっていれば、「次に作業しなければならぬのはどれか」「作業が済んでいるのはどれか」などが「目瞭然」となり、家事の計画を立てやすくなり、こうした「しまえない衣類」が家中に散乱するのを防ぎます。

「衣類作業基地」の効果として、たとえば「纏つたりした衣類をオープン棚などに仕分けして置けば、お子様が自分の部屋にこれを持って行ってくれることが期待できそうです。場所は、部屋としてあるのではなく、廊下やホール、LDなど家族が必ず通るオープンな場所の一角にあると良さそうです。さらに、ここに連続したクロゼットがあれば、例えば着られなくなった子供服お下がりでいただいた古着などもストックできるでしょう。

また、室内物干し洗面脱衣室などと連続すると、さらに奥様の作業効率が上がるでしょう。



例えば、HINATA コーナーを衣類作業基地にすると…



衣類作業基地の例

■普段と季節外の収納の工夫

＋NESTアイテム「室内物干しコーナー」を利用する方法をご紹介します。室内物干しコーナーは、上でご提案した「衣類作業基地」としても活用できます。棚スペースを充実にさせて、家族それぞれの場所を決めておけば「自分の物があるな」と気づきやすいです。

また、吊るす収納スペースがあれば、アイロン掛けをする前の衣類を掛けておくこともできます。衣類家事に係ることをまとめればお部屋も、作業もスッキリです。

*＋NEST「プラスネスト」参照
季節外の物は、実家やトランクルームを利用し、自宅外に保管するという方法もあります。また、衣類や布団をクリーニングするのに併せて保管してもらおうという賢い方法もあります。不要な時期は、保管してくれ、希望の時期に配送してくれるので便利ですね。

*宅配クリーニング参照



*＋NEST[プラスネスト]
http://www.asahi-kasei.co.jp/atlas/mansion/concept/plasnest/index.html/
*宅配クリーニング http://www.asahi-kasei.co.jp/atlas/support/index.html/

なりません。布団は圧縮パックを利用してもかさ張りますし、幅も奥行きも必要ですから個室のクロゼットやタンスには収まりきれないで共用の押入や納戸に、他にも冬の厚手のシャツや毛布の収納場所も必要です。

また、意外と侮れないと思ったのが寝装品の量です。小さいお子様は寝汗もかくし、大人よりも頻繁にシャツやカバールの交換が必要なこと、お子様の多いご家庭では寝装品の量もかなり多くなるという結果が出ています。

衣類だけでなく寝具、寝装品も「使う場所に使う物」「使う人の部屋に収納」という原則が守られていると管理が混乱しないので、なるべく個室の中に寝具、寝装品を入れるスペースが確保できると良いです。また、個室内が無理な場合でも、家族全員が十分に収納できる押入などを確保できるように考えたいものです。

日常使う寝装品の量

全体平均値	個数
夫婦と子供1人	2.7個
夫婦と子供2人	3.9個
夫婦と子供3人	7個

※(基本単位)幅45×奥行55×高さ24cmの衣装ケースの数

■衣類関連家事

現実問題として、衣類関連家事(※)を行っているのはほとんどが奥様で、その負担感はかなり強いと思われれます。例えば「衣替えを行う方」については、過半数の奥様が一人で作業をされています。また、フリーアンサーで

